

1. 会社概要（基本情報）

会社名	オービス・インベストメンツ株式会社	
所在地	住所	〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア
	電話	03-6705-4920
	H P アドレス	www.orbis.com/jp
代表者	代表取締役社長 時国 司	
金融商品取引業登録番号	関東財務局長（金商）第2944号	
登録年月日	平成28年8月9日	
協会会員番号	012-02819	
業務開始年月	平成28年9月5日	
資本金	2億4千万円	
受付窓口	顧客対応部門	
電話	03-6705-4920	
E-mail アドレス	email_oikk@orbis.com	

2. 運用の特色（投資哲学、運用スタイル等）

オービス・グループでは、1989年の創業以来「お客様の貯蓄と富を増やし、お客様の力になること」という明確な使命を掲げ、投資活動を行っています。この使命は、**ファンダメンタル重視、長期、コントラリアン**を柱として、「本源的な価値に対して割安な銘柄に投資する」という運用哲学を通じて実現できると信じています。

- ・**ファンダメンタル重視**：投資対象企業について十分な時間をかけ精緻に分析します。
- ・**長期**：株価が合理的な水準になるまでに要する時間は予測不可能であるため、投資アイデアが実を結ぶまで辛抱強く待ちます。また、そうした長期投資が可能となる組織体制を整えています。
- ・**コントラリアン**：優れた投資リターンを実現するためには、市場とは異なる視点を持つ姿勢が必要不可欠であると考えています。オービスはベンチマークから乖離したポートフォリオを構築することへの不安は一切ありません。

割安銘柄への投資を目指す弊社の運用アプローチは、優れたリターンを提供すると同時に、恒久的な資産喪失のリスクを軽減すると確信しています。この運用哲学に基づいて行なうボトムアップの銘柄選択こそが、オービスのコアスキルです。弊社のコントラリアンな運用哲学の下では、市場から人気のない銘柄が対象になりやすく、平均的にみれば、市場全体と比較してマルチプルの低い企業の調査に多くの時間を費やす傾向にあります。しかし、弊社の投資対象は、成長の遅速や企業の規模、質の高低によって制限されることはなく、表面上のマルチプルよりも、本源的価値に対していかに割安であるかに着目しています。

3. 投資に関する意思決定プロセス

オービス・グループでは、以下のプロセスを通じて、顧客資産の運用にかかる投資意思決定を行なっています。

- (1) 投資アイデア創出：オービス独自のモデルやツールを用いることで、調査ユニバースの銘柄群から、量的および定性的なスクリーニングを行い、初期の投資アイデアを創出します。
- (2) 独立したファンダメンタル分析：株式アナリストが各自独立して、有望な銘柄を分析し、三段階に亘る体系的なリサーチプロセスを経て、最も有望な投資アイデアを厳選します。
- (3) 相互評価：リサーチプロセスの最終段階まで投資アイデアが進んだ場合、アナリスト間のミーティングが招集されます。これは意思決定機関ではなく、投資アイデアに厳格かつ綿密なフィードバックを与える場となっています。
- (4) ポートフォリオ構築：ポートフォリオ・マネージャーが、投資アイデアの中から最も確信度の高い投資アイデアを採用し、顧客ポートフォリオを構築します。この際、ポートフォリオ全体のリスクや、通貨エクスポージャーも考慮します。

4. 運用体制

オービスの運用チームは2024年3月末時点において、合計64名で構成されています。運用チームを率いるアダム・カーを含め、37名の株式アナリスト、8名のマルチアセット・アナリスト、2名の通貨アナリスト、9名のクオンツおよびデータ・インサイト・アナリスト、そして8名のトレーダーで構成されています。アダム・カーが運用チーム全体の責任者であり、お客様の資産を直接運用するアナリストの選定およびモニタリングを含め弊社の運用プロセス全体に対し責任を負っています。お客様の資産を直接運用するアナリストは、年功ではなく、弊社のパフォーマンス分析システムによって認められた銘柄選択能力に基づいて選定されており、また選定された後もその立場にふさわしいことを実証し続ける必要があります。

お客様にとって唯一無二の運用会社となるためには、長期にわたってリターンを積み上げていく必要があります。一方で、長期間に亘り同じ人員での運用を続けることは限りません。オービスは、運用の持続性を担保するため、創業来、弊社の強みである銘柄選択プロセスの確立、および銘柄選択能力を継承していく次世代の育成に注力してきました。内部で人材を育成し、それぞれの強みを持つ複数の意思決定者を見出し、そして運用知識に幅広さと深さを確保することにより、弊社の運用能力が時間と共に希薄化することなく、強固なものとなるよう努めています。

5. 運用金額

2024年3月末時点において、オービス・グループは世界全体で約391億米ドルの運用資産をお預かりし、世界の割安な銘柄に集中投資しています。

オービス・グループが運用する各主要運用戦略の顧客資産残高は下記の通りです。

運用戦略	顧客資産残高 (米ドル)
オービス・グローバル・エクイティ戦略	234億
オービス・ジャパン・エクイティ戦略	36億
オービス・エマージング・マーケット・エクイティ戦略	22億
オービス・グローバル・バランス戦略	42億
オービス・オプティマル戦略	31億

2024年3月31日時点

また、2024年3月末時点におけるオービス・インベストメンツ株式会社（日本拠点）の投資一任契約残高は、33億89百万円です。

6. 運用実績

オービスの旗艦戦略であるグローバル株式運用戦略は、MSCIワールド・インデックスに対し、1990年1月1日の設定来で3.8%（2024年3月31日時点。運用報酬控除後*）の超過収益を創出しています。また、日本株式運用戦略においては、TOPIXに対し1998年1月1日の設定来で4.5%（2024年3月31日時点。運用報酬控除後*）の超過収益を創出しています。*ゼロ・ベース・リファンダブル・リザーブ・フィー

各年度の運用実績

グローバル株式戦略は、過去35か年度のうち、運用報酬控除後*でマイナスの超過収益となった年度は7回のみです。（年率%、運用報酬控除後、米ドル建て）

年度 (各年3月末時点)	1989†	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
オービス・グローバル・エクイティ戦略 (絶対収益)	(3.4)	7.1	15.7	13.1	16.5	6.0	33.6	12.2	20.8	17.2	19.2	3.2	10.1	(23.7)	73.2
MSCIワールド・インデックス	(14.3)	6.4	(1.1)	12.1	13.5	9.3	20.0	9.4	32.0	12.6	21.9	(25.1)	(4.2)	(24.2)	43.9
オービス・グローバル・エクイティ戦略 (超過収益)	12.8	0.7	17.0	0.9	2.6	(3.1)	11.3	2.6	(8.5)	4.1	(2.2)	37.8	15.0	0.6	20.4

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	設定来
11.2	25.3	19.4	1.5	(39.6)	59.2	13.7	0.6	13.5	25.9	1.2	(1.2)	21.6	19.0	(6.6)	(13.4)	61.9	(2.0)	(2.1)	29.8	11.3
10.5	18.0	15.4	(3.3)	(42.6)	52.4	13.4	0.6	11.8	19.1	6.0	(3.5)	14.8	13.6	4.0	(10.4)	54.0	10.1	(7.0)	25.1	7.3
0.5	6.1	3.4	4.9	5.1	4.5	0.2	0.1	1.5	5.7	(4.5)	2.3	5.9	4.8	(10.2)	(3.4)	5.1	(11.0)	5.3	3.7	3.8

(2024年3月31日時点) (†1989年度は、1990年1月から3月のみ。年率換算していません。)

*ゼロ・ベース・リファンダブル・リザーブ・フィー

日本株式運用戦略は、過去27か年度のうち、運用報酬控除後*でマイナスの超過収益となった年度は5回のみです。（年率％、運用報酬控除後、円建て）

年度 (各年3月末時点)	1997†	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	設定来
オービス・ジャパン エクイティ戦略 (絶対収益)	19.5	18.2	16.4	(0.1)	(8.3)	(16.3)	58.1	3.6	47.2	(2.5)	(23.5)	(31.3)	35.5	(7.3)	7.3	28.5	22.6	25.2	(8.3)	19.3	19.9	(7.6)	(8.5)	43.7	3.9	9.4	47.9	9.6
TOPIX	7.0	2.0	35.3	(24.7)	(16.4)	(25.0)	51.0	1.3	47.7	0.2	(28.1)	(34.9)	28.3	(9.4)	0.4	23.6	18.3	30.3	(11.1)	14.3	15.5	(5.4)	(9.9)	41.7	1.6	5.4	40.9	4.9
オービス・ジャパン エクイティ戦略 (超過収益)	11.7	15.9	(14.0)	32.6	9.6	11.5	4.7	2.2	(0.4)	(2.7)	6.4	5.5	5.6	2.2	6.8	4.0	3.6	(4.0)	3.2	4.3	3.8	(2.4)	1.5	1.4	2.3	3.9	5.0	4.5

(2024年3月31日時点) (†1997年度は、1998年1月から3月のみ。年率換算していません。)*ゼロ・ベース・リファンダブル・フィー

*ゼロ・ベース・リファンダブル・リザーブ・フィー

7. アピールポイント

オービス・グループは、ファンダメンタル重視・長期投資・コントラリアン思考の3本の柱を基にした卓越した運用パフォーマンスをお客様に提供するため、1989年に設立されました。

オービスの投資運用アプローチとコアバリューは、創業者であるアラン・W・B・グレイのビジョンに由来しています。アラン・グレイはハーバード・ビジネス・スクール卒業後の1965年に、ボストンのフィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ社で投資家としてのキャリアを開始しました。8年間の勤務の後、アラン・グレイは自らの故郷である南アフリカに帰り、アラン・グレイ・プロプライアタリー・リミテッドを立ち上げました。それ以来、同社は320億ドル以上の運用資産を持つ、南アフリカ最大の非上場独立系資産運用会社に成長しています。それに続き、オービスはグローバルに事業を展開する組織として、同様の運用および組織哲学の下、設立されました。オービスの日本法人であるオービス・インベストメンツ株式会社も、同じ運用・組織哲学の下、2016年に業務を開始しました。

オービスの組織体制は、運用哲学の継続的実行を支えるよう設計されています。魅力的な長期パフォーマンスを実現すること、そして、将来的なパフォーマンスを損なう意思決定を避けるよう、組織原理レベルで工夫を凝らしています。

永続的なプライベート・オーナーシップ

創業者によって設立された財団が永続的にオービスの株式を保有する、プライベート・オーナーシップ構造をとっています。この体制により、短期的な結果へのプレッシャーを外部から受けることなく、長期視点に集中することが可能となっており、社員がコントラリアンな意思決定を行い、またその姿勢を維持する自由を与えています。

利害の一致

オービスは創業来、お客様との利害一致に拘っています。お客様との利害一致を図るため、弊社では創業来、パフォーマンス連動型の運用報酬体系を採用しています。

ゼロ・ベース・リファンダブル・リザーブ・フィー・シェアクラスがその最たる例であり、当該運用報酬体系下では、文字通り基本報酬がゼロで、超過収益があがった場合にのみ運用報酬をお支払いいただく構造です。また、ベンチマークを下回った場合には、成功報酬の払戻しが発生する構造にもなっています。個人レベルでは、お客様に特段高い付加価値を実現した者に、会社の利益と連動したキャッシュフローを受け取る権利を付与しています。この権利付与は、各個人のパフォーマンスを反映したものですが、その

額は会社が顧客に対する付加価値提供に成功するかにかかっています。

また、オービスの役職員は、自身の資産をお客様と同じ条件・運用報酬により、お客様と同じファンドに投資しており、我々役職員自身が弊社ファンドの最大投資家の一つとなっています。したがって、役職員にはお客様の資産を守るインセンティブがあります。

個人の説明責任

コントラリアンな投資判断は、グループではなく個人によって下されるのが最善であると考えています。そのため、オービスの投資プロセスは、個人による思考の促進、および説明責任の確立を実現するよう設計されています。弊社のすべての役職員は、お客様への付加価値に基づいて評価されています。また、弊社独自の精緻なパフォーマンス評価システムにより、個人の投資判断の結果を追跡し、各個人の貢献を客観的に評価することを可能にしています。

持続可能性の構築

オービスの使命における重要な要素である「持続的に優れた長期パフォーマンスを提供する」ためには、世代交代が肝要であり、銘柄選択のみならず、オービスの組織的な銘柄選択力を再現・成長させる必要があります。オービスが培ってきた30年に亘る経験、および南アフリカの姉妹会社であるアラン・グレイ・プロプライエタリー・リミテッドが培った40年以上の経験を活かし、少数の重要な原則に焦点を絞り銘柄選択能力を構築しています。